

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成27年3月19日 (2015.3.19)

【公開番号】特開2013-31475(P2013-31475A)

【公開日】平成25年2月14日 (2013.2.14)

【年通号数】公開・登録公報2013-008

【出願番号】特願2011-167790(P2011-167790)

【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 2 0

A 6 3 F 7/02 3 0 4 D

A 6 3 F 7/02 3 2 6 Z

【手続補正書】

【提出日】平成27年1月30日 (2015.1.30)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

遊技球の始動口への入賞を検出する始動口センサと、
 前記始動口センサにより遊技球の入賞が検出される毎に大当たり抽選を行うための乱数データを発生させる乱数発生手段と、
 前記乱数データから、当該乱数が大当たりを示すものであるか判定する判定手段と、
遊技者によって操作可能な操作手段と、
所定の演出画像を表示可能な演出表示装置と、
前記操作手段の操作内容に応じて可動体の一部を可動させる第一可動演出と、当該第一可動演出と異なり前記判定手段の判定結果に応じて当該可動体を可動させる第二可動演出とを実行可能な可動演出実行手段と、を備え、
 前記可動演出実行手段は、
前記第二可動演出において、前記可動体を前記演出表示装置の外周に位置する初期状態から当該演出表示装置の視認可能範囲を変化させる出現状態に可動し、
前記第二可動演出の実行有無に関わらず前記第一可動演出を実行可能に、当該第一可動演出と前記第二可動演出とを個々に動作可能に構成することを特徴とする遊技機。

【請求項 2】

前記所定の演出画像に合わせた音を出力可能なスピーカを備えることを特徴とする請求項 1 に記載の遊技機。

【請求項 3】

遊技領域には、前記始動口の他に遊技球が入賞可能な入賞口が設けられることを特徴とする請求項 1 又は請求項 2 に記載の遊技機。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 2】

パチンコ機等の遊技機では、ユーザインタフェースとして操作手段を設け、この操作手段の操作により、遊技内容の選択等を行わせ、演出内容を変更させる技術が存在する。例えば、操作手段としてジョグシャトルを設け、遊技者が、遊技機に設定されるこのジョグシャトルの操作有効期間において、ジョグシャトルを前後左右に傾動操作を行い、遊技機の液晶画面上に表示されたポイントを、相互に異なる演出と紐付けられた複数の選択図柄のいずれかの上へ移動させ、PUSHボタンの押下することにより、遊技者が選択した予告演出が実行されるようになっている（例えば、特許文献1参照）。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0003

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0003】

また、遊技機が、操作要求期間中に遊技者に対して操作手段への操作を促し、遊技者はこの操作の誘導に応じて押圧操作又は回転操作を行うと、遊技者によってなされた操作に応じて演出を液晶画面上で実行する技術が開示されている（例えば、特許文献2参照）。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0005

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0005】

従来の操作手段における遊技者の操作に応じた操作対応演出は、液晶画面上における演出画像であって、表示画面領域に限られたものであった。このため、操作対応演出に遊技者の関心を引き付けることが難しく、遊技への興味の低下を招く懸念があった。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

本発明は、以上のような従来技術の課題に基づいてなされたものであり、その目的は、遊技者の操作手段に対する操作意欲を高め、遊技への興味の低下を抑制させることのできる遊技機を提供することにある。

【手続補正7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0008】

上記課題を解決するため、本発明は以下のような構成を有する。

[態様1]

遊技球の始動口への入賞を検出する始動口センサと、

前記始動口センサにより遊技球の入賞が検出される毎に大当たり抽選を行うための乱数データを発生させる乱数発生手段と、

前記乱数データから、当該乱数が大当りを示すものであるか判定する判定手段と、
遊技者によって操作可能な操作手段と、
所定の演出画像を表示可能な演出表示装置と、
前記操作手段の操作内容に応じて可動体の一部を可動させる第一可動演出と、当該第一可動演出と異なり前記判定手段の判定結果に応じて当該可動体を可動させる第二可動演出とを実行可能な可動演出実行手段と、を備え、
前記可動演出実行手段は、
前記第二可動演出において、前記可動体を前記演出表示装置の外周に位置する初期状態から当該演出表示装置の視認可能範囲を変化させる出現状態に可動し、
前記第二可動演出の実行有無に関わらず前記第一可動演出を実行可能に、当該第一可動演出と前記第二可動演出とを個々に動作可能に構成することを特徴とする遊技機。

【手続補正 8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0009】

以上のような態様によれば、一つの可動体（左右可動演出ユニット）において、第一可動演出（遊技者の操作によって可動する回転装飾体3410Aの回転演出）と、第二可動演出（回転ユニット3410のスライド演出）とを適宜組み合わせた多彩な可動演出を提供することができるので、遊技者の操作意欲を高め、遊技への興味の低下を抑制することができる。例えば、有利遊技状態に当たる遊技状態において第二可動演出を実行する場合、第二可動演出実行前に遊技者による操作手段の操作を促し、遊技者が操作すると、第一可動演出を契機に第二可動演出が行われたかのように見せることができる。すなわち、遊技者の操作による操作対応演出（第一可動演出）を第二可動演出の前兆演出と位置付けることができ、遊技者の操作意欲を高めることができる。

【手続補正 9】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 10】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0011

【補正方法】削除

【補正の内容】